

大山火山の噴火の歴史と規模を明らかにする — 幻の大山蒜山原軽石 (DHP) を追いかけて —



自然・環境評価研究部 地球科学研究グループ 加藤 茂弘

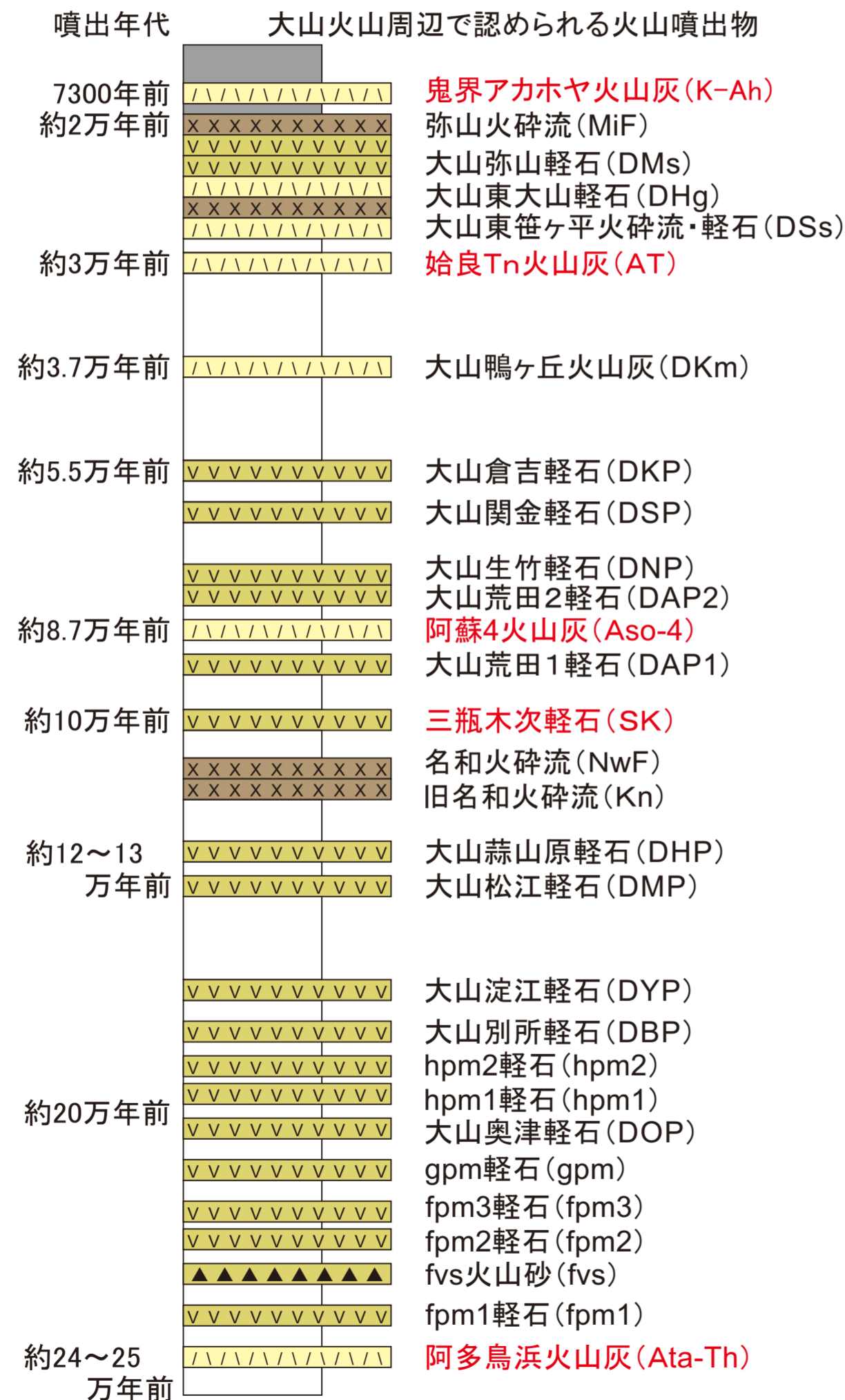
中国地方中部の大山火山は、約50万年前から大規模な火山噴火を繰り返し、大量の軽石や火山灰を噴出してきました。その活動史と噴火の規模を明らかにすることは、防災上の重要な仕事です。



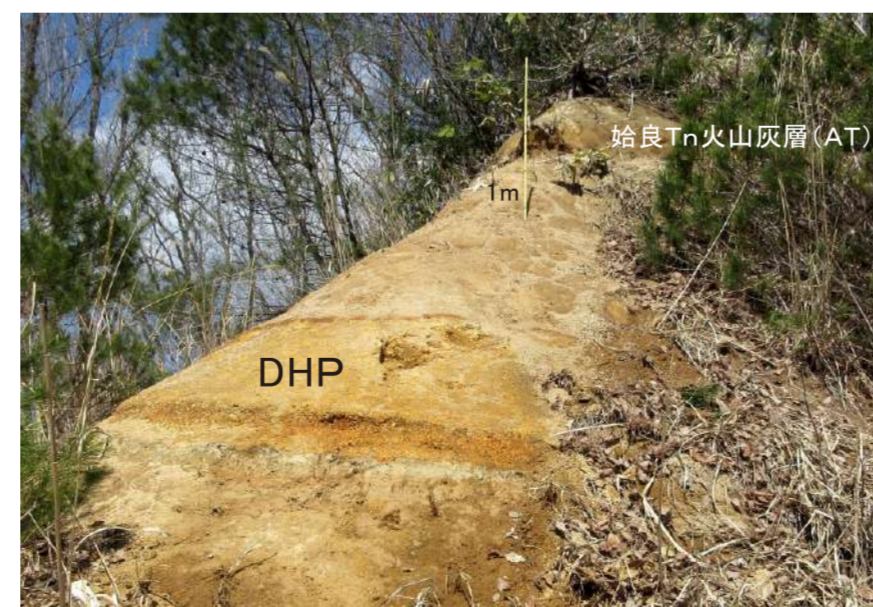
蒜山高原から見た大山火山
左側:大山溶岩ドーム 右側:烏ヶ山溶岩ドーム

1993年から大山火山周辺や兵庫県内だけでなく、琵琶湖や若狭湾の周辺地域で大山火山から噴出した軽石・火山灰を探してきました。長年の調査から、近畿地方だけでなく関東地方まで分布する軽石や火山灰があることがわかり、大山火山がこれまでに考えられてきたよりも大規模な噴火を多く繰り返してきたことが明らかになりました。

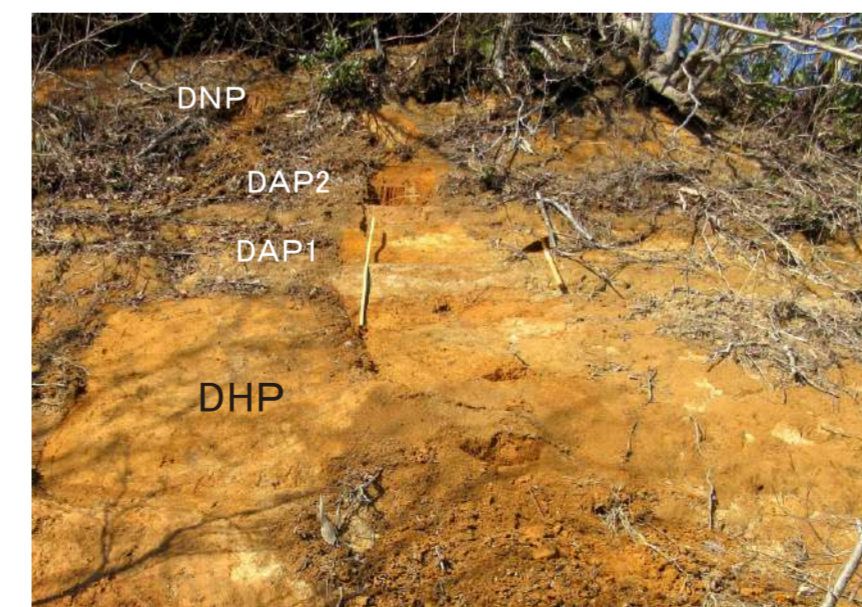
2010年頃から、大山火山の東方に広く分布するとされながらも実際の分布が不明であった大山蒜山原軽石 (DHP) や 大山荒田1軽石 (DAP1) に注目して調査を進めています。



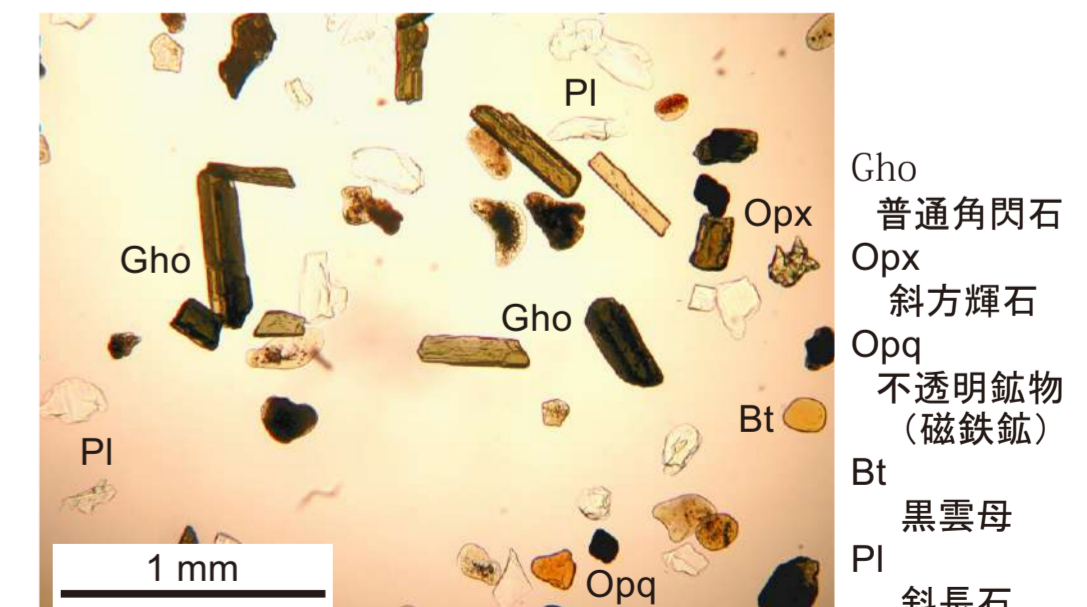
約25万年前以降に噴出した大山火山の軽石層
赤字は遠方の火山から噴出, 降灰した広域火山灰



蒜山高原の大山蒜山原軽石 (DHP)
最下部が粗粒で, 直下に灰色火山灰がある



人形峠の大山蒜山原軽石 (DHP)
上位にDAP1, DAP2, DNPが見られる



人形峠のDHP (中部) の偏光顕微鏡写真
平行ニコル, 普通角閃石と斜長石が多い

- Gho 普通角閃石
- Opx 斜方輝石
- Opq 不透明鉱物 (磁鉄鉱)
- Bt 黒雲母
- Pl 斜長石